

○地下埋設物配置基準

平成3年4月1日告示第101号

地下埋設物配置基準

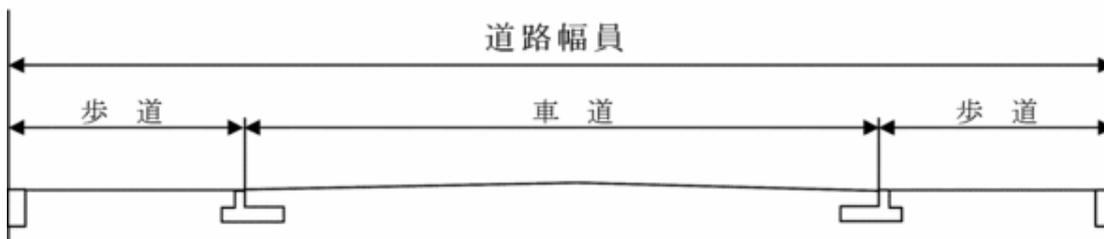
- 1 この図例の寸法単位は、「メートル」とする。
- 2 この図例は、通常北面又は東面して実地に適用する。
- 3 この図例における地下管線路の標示は、次の表による。

凡例				
地下管線路種別	本線		支線	摘要
電信電話線	T		t	
高圧電線	HV 1	HV 2	h	HV 1 ダフト式、HV 2 トラフ式
電燈低圧線			i	
水道管	W	HW	W	
下水道管等	S		S	
ガス管	G	HG	g	

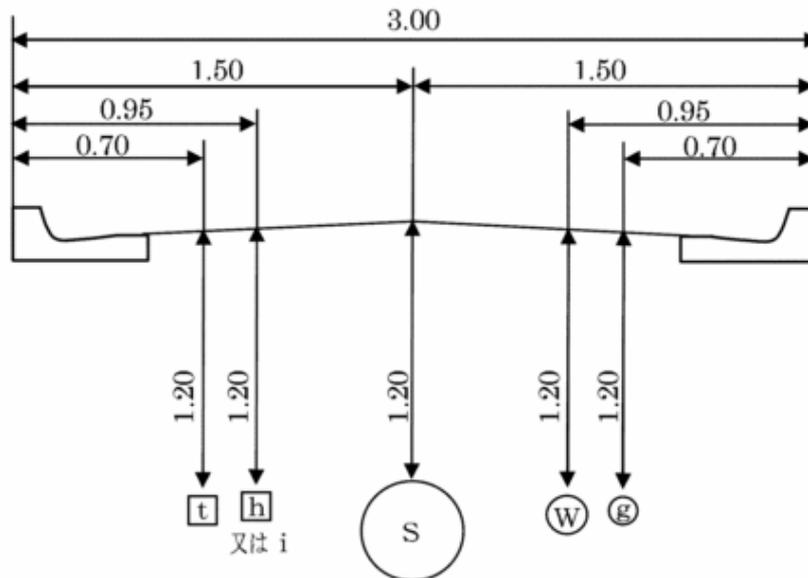
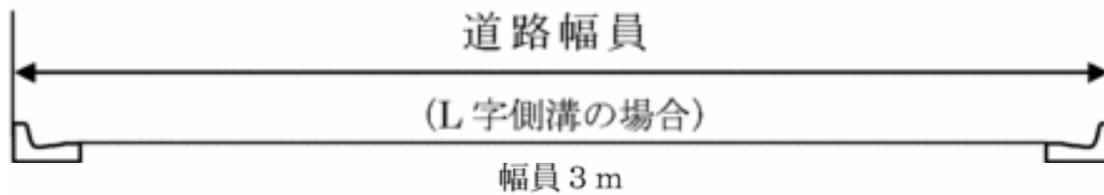
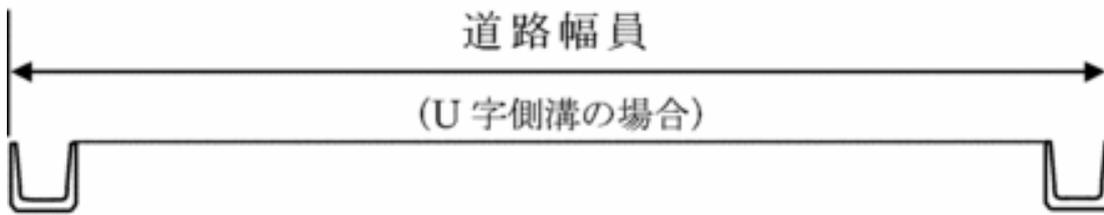
- 4 地下管線路が互いに交差する場合は、下水管きょ以外のものは通常交差点における管線路軸線の高低により上下を定める。

道路標準横断面図

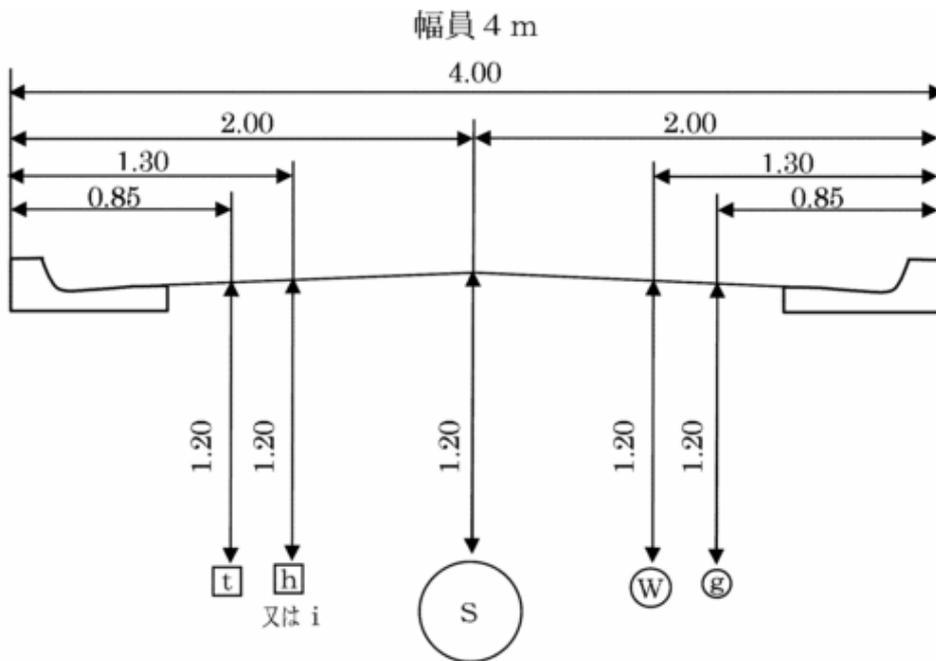
(歩車道の区別のある道路)



(歩車道の区別のない道路)

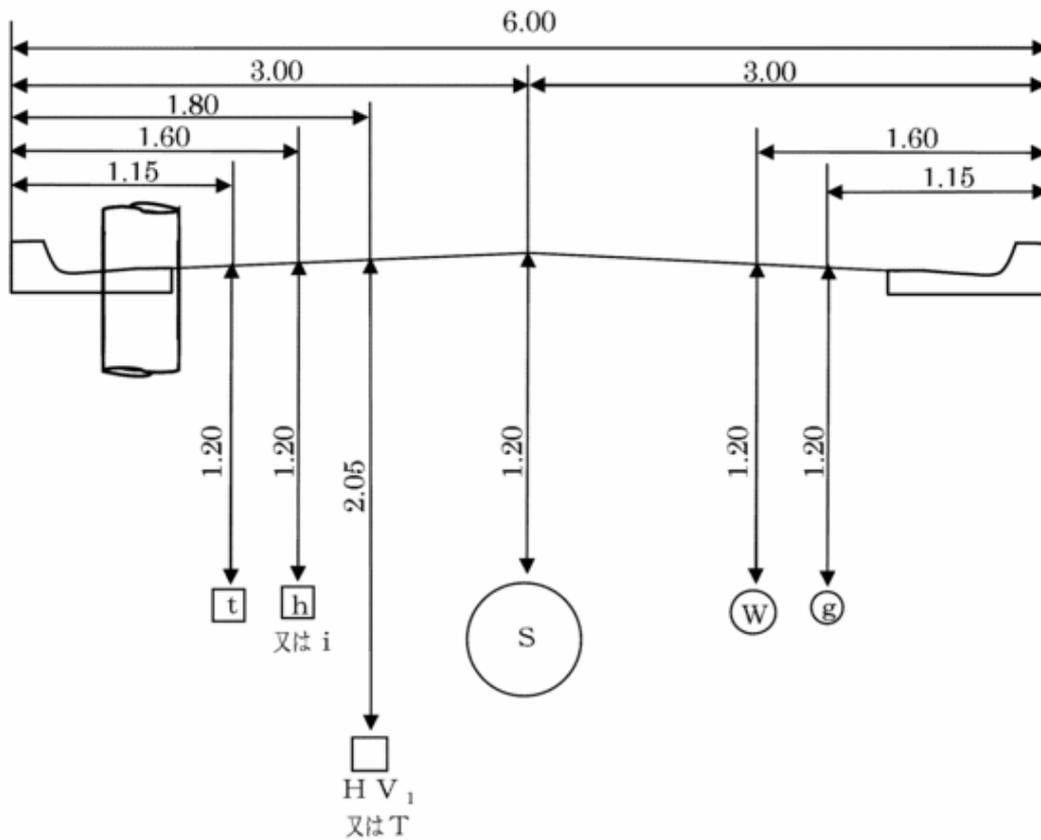


1. 路幅内になるべく電柱を建てないこととし、各戸引込線は直接又は共同引込法によること。
2. w、h及びiは、Sの人孔の所では適宜う曲すること。



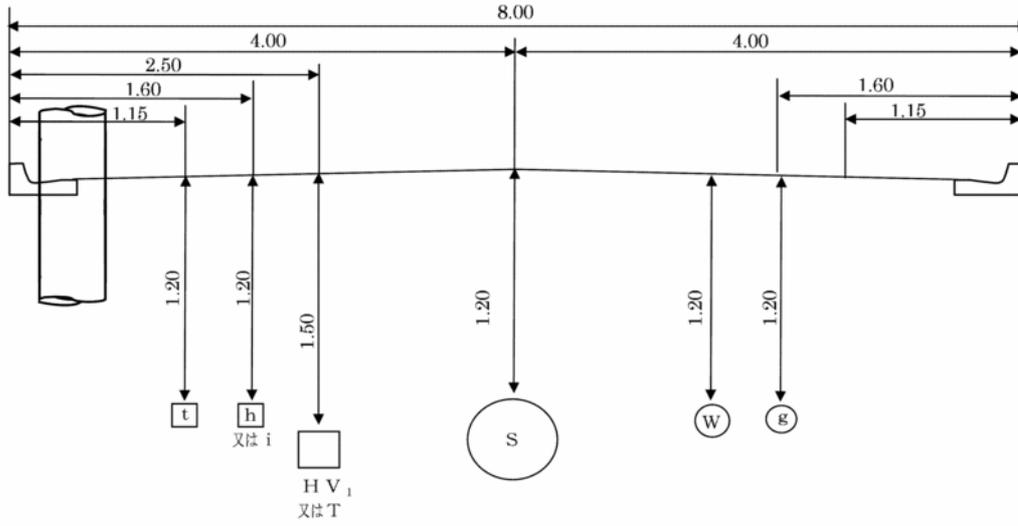
1. 路幅内になるべく電柱を建てないこととし、各戸引込線は直接又は共同引込法によること。
2. w、h及びiは、Sの人孔の所では適宜う曲すること。

幅員 6 m

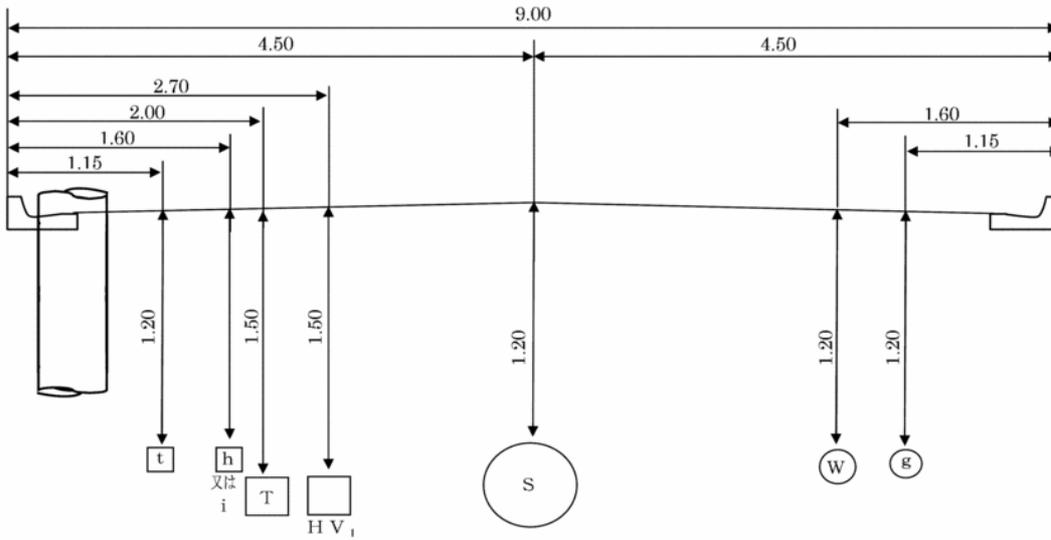


1. t、h及びiは、HV₁又はTの人孔の所では適宜う曲すること。
2. 下水取付管がw、g、h、i及びtに支障を来たすときは、適宜上下すること。

幅員 8 m

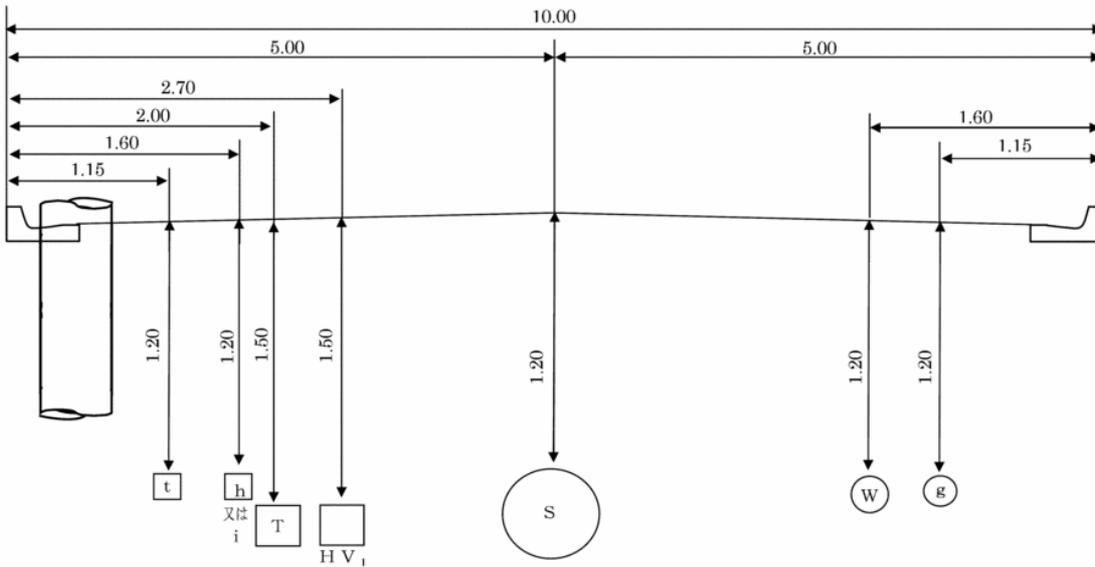


1. t、h及びiは、H V₁又はTの人孔の所では適宜う曲すること。
 2. 下水取付管がw、g、h、i及びtに支障を来たすときは、適宜上下すること。
- 幅員 9 m



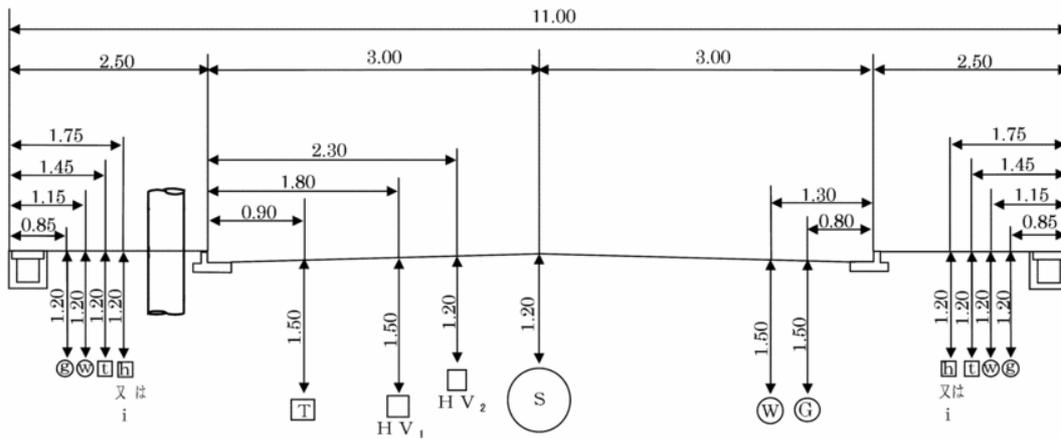
1. 下水取付管がT、H V₁、w、g、h、i及びtに支障を来たすときは、適宜上下すること。

幅員 10 m



1. 下水取付管が T、HV₁、w、g、h、i 及び t に支障を来たすときは、適宜上下すること。
幅員 1.1 m

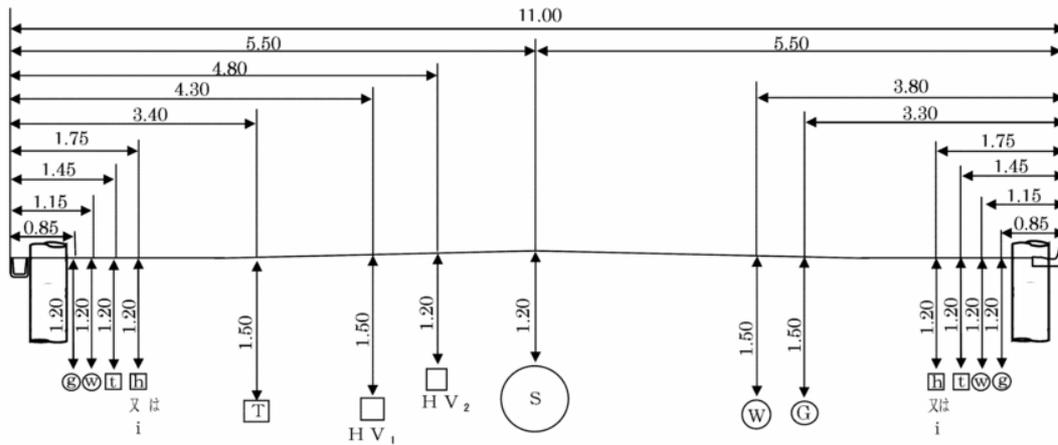
(歩車道の区別のある道路)



1. HV₂ は、人孔の所では適宜う曲すること。

幅員 11 m

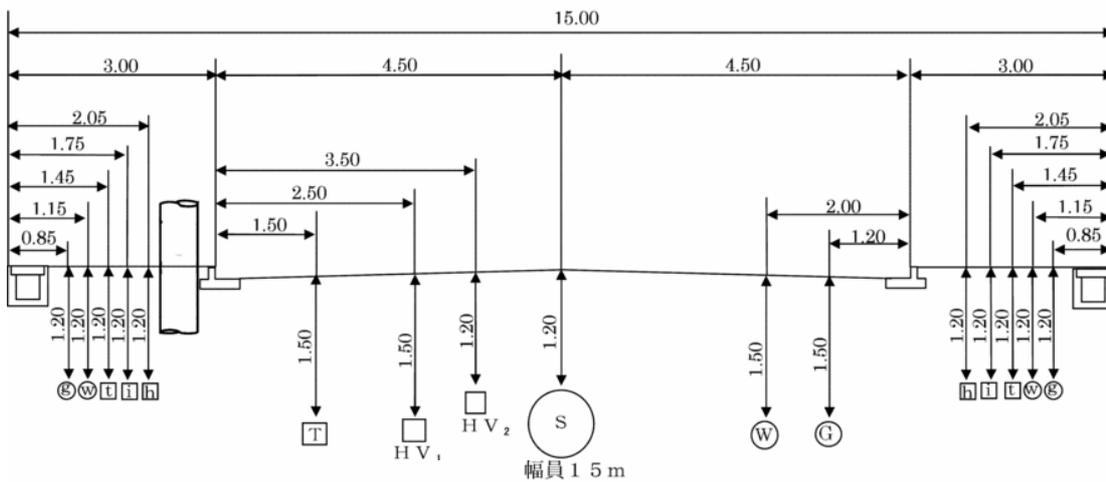
(歩車道の区別のない道路)



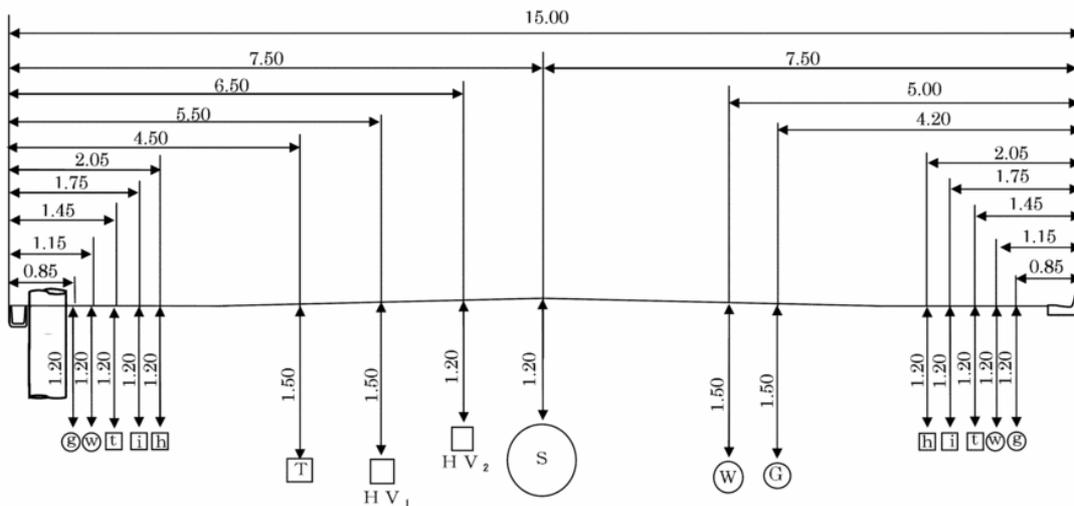
1. g は、電柱のある所ではう曲すること。
2. HV₂ は、人孔の所では適宜う曲すること。

幅員 15 m

(歩車道の区別のある道路)



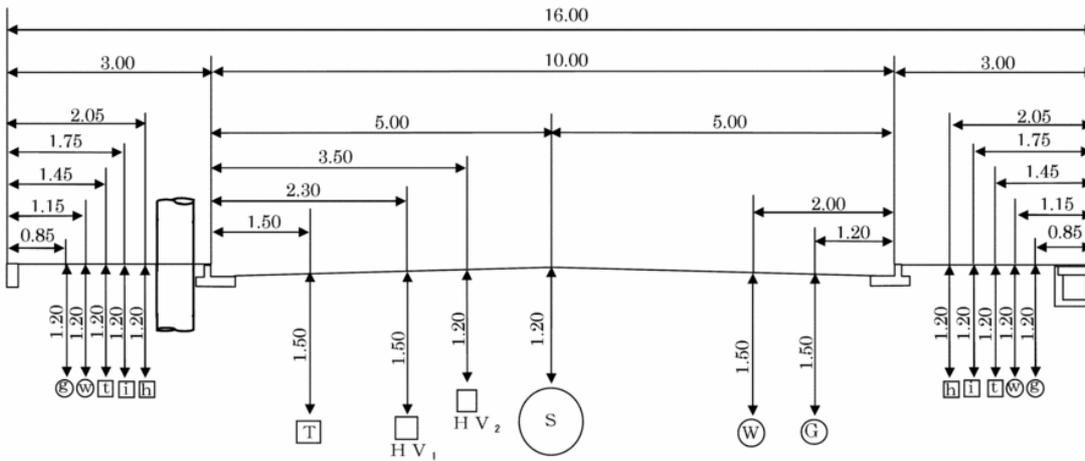
(歩車道の区別のない道路)



1. g は、電柱のある所ではう曲すること。
2. HV₂ は、人孔の所では適宜う曲すること。

幅員 16 m

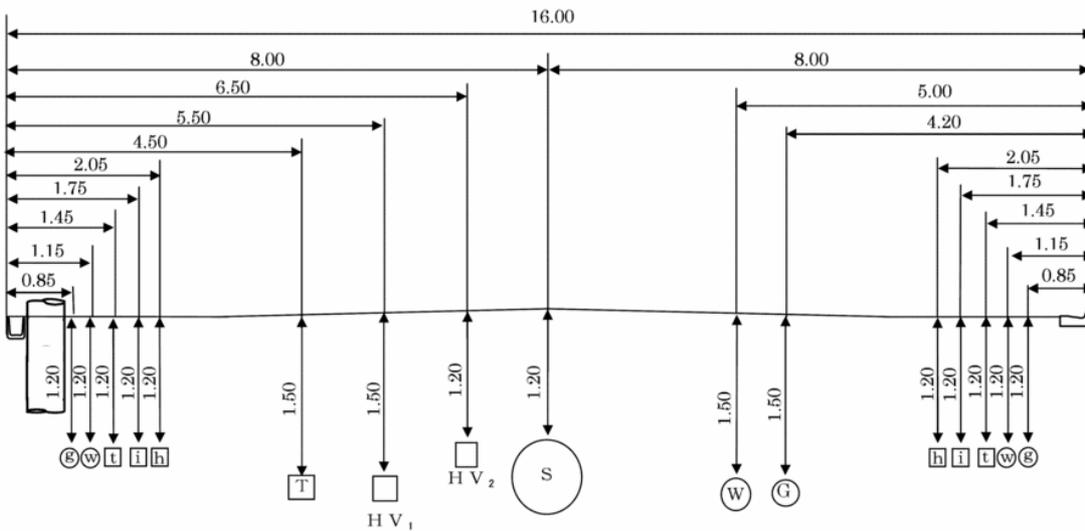
(歩車道の区別のある道路)



1. HV₂は、人孔の所では適宜う曲すること。

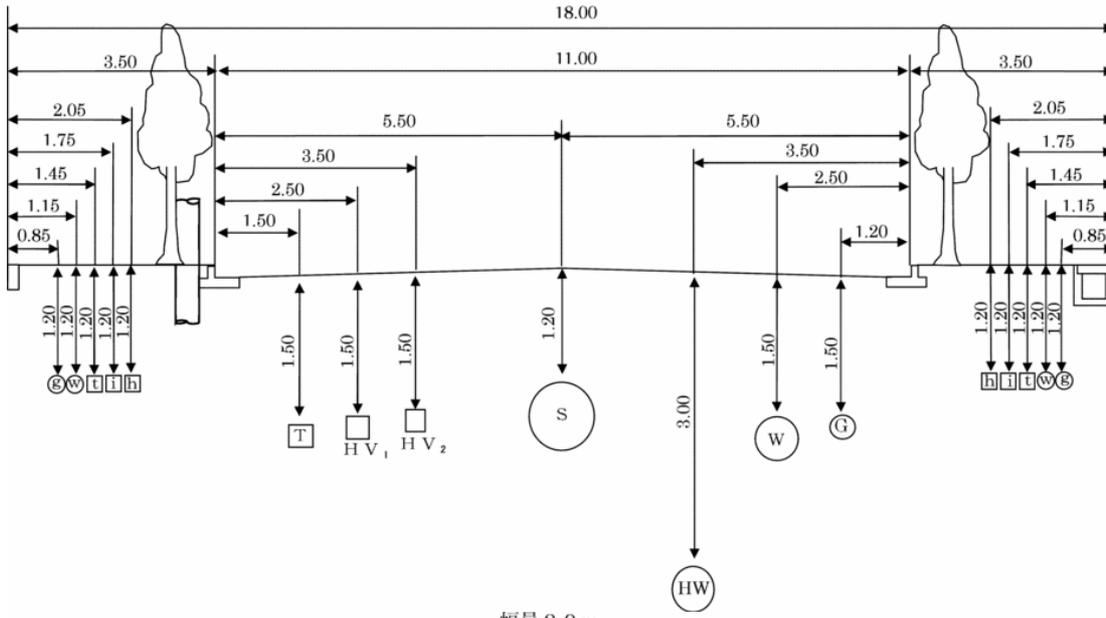
幅員 16 m

(歩車道の区別のない道路)

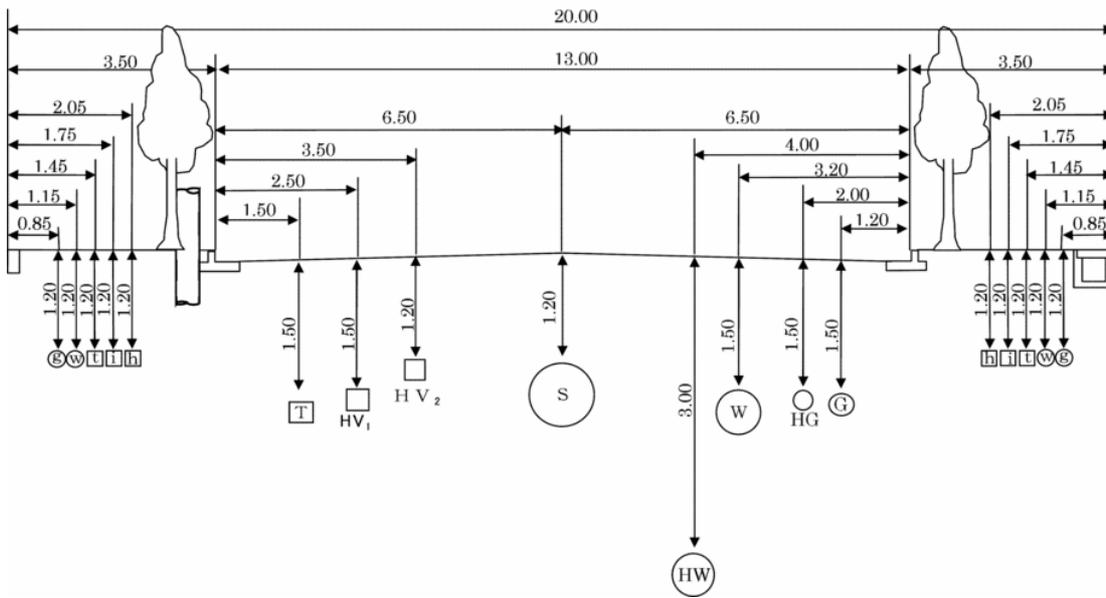


1. g は、電柱のある所ではう曲すること。
2. HV₂は、人孔の所では適宜う曲すること。

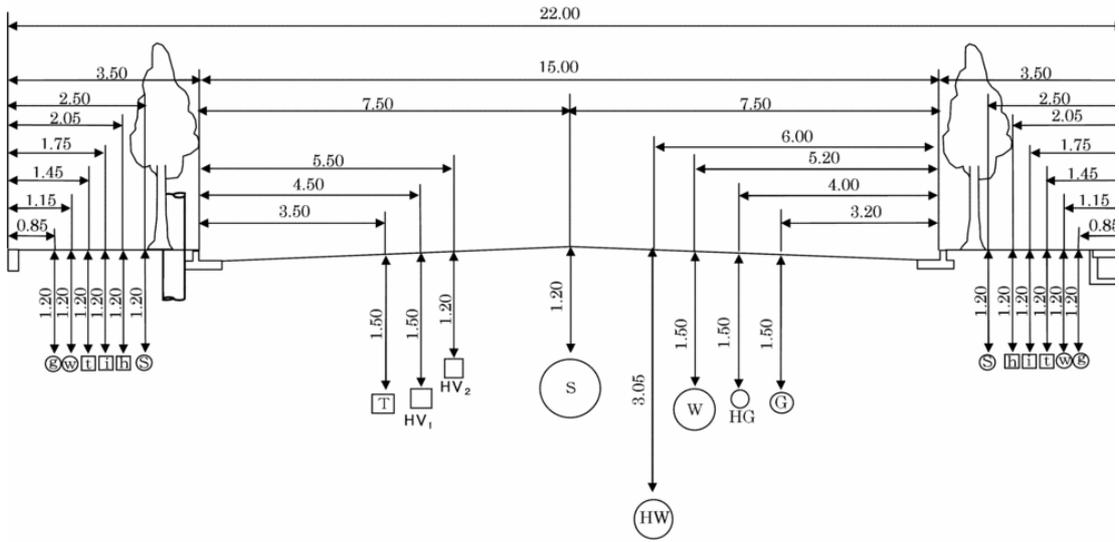
幅員 18 m



幅員 20 m



幅員 2.2m



1. h 及び i は、S (歩道下) の人孔の所ではう曲すること。